



SSSV 報告

歯学科6年 畑 奈那美

私は、今年の3月に日本学生支援機構（JASSO）による留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）により、メキシコのコアウイラ自治大学を訪問させていただきました。この場をお借りして、2週間のメキシコ滞在についてご報告させていただきます。

コアウイラ自治大学では、主に学生の診療室（新潟大学の総合診療部のようなところ）で実際に患者様の診療に参加したり、各専門診療室を見学して簡単な介助をさせていただいたりしました。

学生実習では、主に4年生、5年生の実習に加わり、実際に何人かの患者様の歯科治療をさせていただきました。診療の際には、言葉が通じないために、患者様とコミュニケーションをとることも非常に苦労しました。しかし、言葉は通じなくとも、ほとんどの患者様が日本から来た私に笑顔で接してくださり、中には、「心配しないで。緊張しなくていいよ。」などという温かい言葉をかけてくださる方もおり、メキシコの方々の優しさに触れた瞬間でもありました。

基本的に現地の学生や先生方と会話するときは、すべて英語でしたが、多くの学生や先生方が流暢に英語を操っているのが印象的でした。それに対し、自分の英語力のなさを痛感させられ、コミュニケーションツールとしての英語の重要性を再認識しました。

また、2週間の滞在中で、メキシコと日本の歯学部には様々な相違点があることを実感しました。中でも驚いたのが、メキシコでは3年生から実際に患者様を担当して臨床実習を行っているということでした。そのため、診療の際は、私より

も下の学年の学生にいろいろと教えてもらうことも多く、先輩のような存在で頼もしく感じるとともに、私も日本でもっと頑張らなくてはと強く感じました。

また、大学以外に、低所得者層に向けたソーシャルサービスを行っている病院にも連れていっていただきました。このような病院は、大学病院や開業歯科医院などと比べると、設備は不十分で、処置できる歯科治療も限られていますが、無料もしくはかなり安い費用で歯科治療を受けることができるそうです。ここでは、日本とは違ったメキシコの歯科事情について知ることができました。

また、滞在中は、学生の家にホームステイをさせていただきました。今回私たちのホストファミリーになってくれた学生（1人は現在インターン）は、昨年SSSVで新潟を訪れており、その際に既に面識がありましたので、彼らと再会できたことは非常に嬉しく、また同時に見知らぬ土地で知り合いに会えたことで安心感を抱いたことを覚えています。ホストファミリーには、本当の家族のように温かく、愛情をもって接していただき、と



でも感謝しています。ホームステイをすることで、メキシコの家庭の様子を知ることができ、メキシコの文化により深く接することができたと思います。

また、学校では、いつでもフレンドリーに話しかけてくれる学生がたくさんいましたし、お昼ご飯を一緒に食べにいたり、休憩時間を一緒に過ごしたりもしました。

今回、日本で臨床実習をさせていただいているこの時期に、海外の歯科医療について学び、見学や実習をさせていただいたことは、非常に貴重な

経験となりました。日本を飛び出し、世界に目を向けることで、自分の視野を広げることができたと思います。また、メキシコの歯学部の様子や歯科事情を知り、実際に診療を経験することができたのはもちろんですが、大学の外でもメキシコの文化に触れたり、多くの方々とのかけがえのない出会いを経験したりすることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。この経験を糧として、残りの学生生活や将来に活かしていきたいと思います。



SSSV 報告

歯学科6年 矢口志保

私は日本学生支援機構(JASSO)による留学生交流支援制度(SSSV)プログラムの一環として、今年の3月にメキシコのコアウイラ大学を訪問させていただきました。5年生の3月というと、臨床実習真っ只中です。そんな時期に大学に2週間も通えないのはどうかと随分悩みに悩みましたが、今行かないともうこんな機会はない! と思い、参加を決意しました。今思うと、その時期に行ったからこそ経験できたことや感じたことが多々あり、参加してよかったと心から思います。今回「歯学部ニュース」の頁をお借りし、拙い文章ではありますがメキシコで得たことを少しでも伝えられたらと思います。

まずメキシコについて簡単に説明すると、日本から飛行機を乗り継いで24時間かかります。そのうち乗継の待ち時間が6時間もあったので、うまくいけばもう少し短時間で到着できたのかもしれませんが、とにかくメキシコは遠いなと実感しました。コアウイラ大学があるトレオンという町はメキシコの北部に位置し、3月は日中30°Cほどありますが、朝晩は冷え込み、とても気温差が激しいです。というもトレオンは砂漠に面しているためそのような気候なのです。公用語はスペイン語ですが、日本とは異なり多くの学生や先生方は英語をペラペラ話します。食事ですが、昨年メキシコにいった学生から体調を崩したと聞いていたため心配の一つでした。薬も準備しましたが出番なく、今はもうメキシコ料理のとりこです。

私はコアウイラ大学歯学部4年生のMalenyの家にホームステイさせてもらいながら、彼女と毎日一緒に大学に通いました。人生で初めてのホームステイでしたが、ホストファミリーが本当によく面倒をみて下さり、充実した日々を送ることができました。

大学では診療室の見学をしたり学生実習に参加

したりと、日本で実習しているのと変わらないくらい毎日忙しかったのを覚えています。それに加え、英語漬けの日々。英語は好きなのですがいわゆる受験勉強用でしか学んでこなかったので、“英会話”にはかなり苦労しました。なかなか言いたいことが伝えられず、相手とのコミュニケーションが十分にとれないもどかしさや悔しさでいっぱいでした。

さて、実習ではどんなことをしていたのかというと、主に模型実習と臨床実習に参加させていただきました。模型実習はワックスアップや支台歯形成練習をして先生に評価してもらうという、実習内容は日本とほとんど同じです。それに対し、臨床実習は日本と大きく異なっています。まず、メキシコの学生は1年生の頃から上級生の診療のアシストをし、3年生から実際に患者様の診療を行っています。さらに麻酔や抜歯もたった一人で行っているのです。4、5年生になると、抜歯は何十症例も経験していますし、形成や印象など何から何まで一人で行い、先生がチェックすることはほとんどありません。私はその頃まだ臨床実習が始まって5ヶ月程だったので、年下の学生たちが一人で立派に診療している姿には大変刺激を受けましたし、彼らの知識量に圧倒されっぱなしでした。



実習中、私は彼らの診療のアシストをすることが多かったのですが、「これやってみる？」といわれ、歯肉圧排や支台歯形成、印象採得、そして抜歯をさせてもらうことができました。抜歯に関しては初めての経験だったのでとても緊張したのですが、学生たちからは“very easy!”と励まされてしまいました。

大学以外でも、social service という貧しい人に無償で歯科診療を提供する施設や歯学部長の開業している歯科医院を見学させていただき、とても貴重な経験をすることができました。また、大学が終わったあとはサイクリングしたり、週末

はパーティやディスコ、休日は砂漠までドライブしたりサッカー観戦したりと、メキシコの文化にもたくさん触れた2週間でした。このプログラムに参加して、多くの方々にお世話になり、日本には得られない出会い、経験ができたことに本当に感謝しています。何より、他の国の自分と同年代の歯学部生がどんなことをしているのか全く知らなかったので、毎日が刺激的で、メキシコの学生の歯科に真剣に向き合う姿に感銘を受けました。まだまだこれから長い歯科医師人生が待っていますが、その中でもこの2週間は忘れられない経験です。



SSSV 報告

歯学科6年 設 楽 仁 子

私は今年の3月に日本学生支援機構(JASSO)による留学生交流支援制度(SSSV)プログラムでメキシコのコアウイラ大学に2週間留学させて頂きました。英語が苦手な私はこのプログラムに参加することに大変悩みましたが、前回メキシコに留学した同級生の勧めと外国の歯学部を実際に体験したいと思い応募しました。留学した後、心から思ったことは本当に参加して良かったということです。このプログラムに参加でき幸運でした。

これからメキシコで体験したことを少し説明していきたいと思います。

平日は大学に通学し、ホストファミリーである Maleny Baraja さんのいる4年生のクラスに参加したり、専門診療科を見学したりしました。コアウイラ大学の歯学部は5年制で3年生から実際に患者様に対して診療を行っていきます。専門診療科は新潟大学とほぼ同じで小児歯科、歯周科、歯診科、矯正科、口腔外科がありました。主に見学が中心でしたがレジン充填や抜歯を経験させて頂きました。新潟大学では学生の時に抜歯を一人で行うことが少ないので実践させてもらえることは貴重な経験でした。浸潤麻酔から鉗子による抜去まで一人で行ったのは初めてだったのでとても緊張しました。今まで臨床実習で見学は何度もしましたが実際に行うことは全く別次元でした。留学中に5症例させて頂きましたが、結局一人で抜くことはできませんでした。メキシコは抜歯の患者数が多いため、コアウイラ大学の学生は既に多くの症例を行っていました。全く歯が動かなく焦る私をよそにあたりまえのように器具を動かす姿はとても堂々としていました。抜歯は優先的にやらせてもらえるので興味があれば積極的にさせてもらおうとよいと思います。

学生の診療内容は新潟大学の臨床実習と似ています。しかし、新潟大学では先生に確認をして治

療を進めていきますが、この大学ではほとんど全て学生自身が行っていました。先生も待機していますが手を出している場面はとても少なかったです。また、その日の治療内容が突然変更になっても学生だけで対応している姿がとても印象的でした。ただし設備や環境は新潟大学の方が整っています。自分がどれほど恵まれた環境にいるのかを客観的に知ることができました。

平日の夜や休日には忙しいにも関わらずホストファミリーや学生、先生方がいろいろな場所に案内してくださりました。メキシコ料理店やサッカー場、ディスコ、パーティー、ダンス広場、サーカス、砂漠、牧場、サイクリング、ソフトボールの試合……さまざまな経験をすることができました。また、毎回異なるメキシコ料理を食べさせていただきました。さらにホストファミリーのお母さんが料理好きなこともあり家庭料理も味わうことができました。

このメキシコ留学の大きな魅力としてホームステイがあげられます。私は今までホームステイをしたことがありませんでした。そのためとても緊張していましたが、温かく迎えてもらえました。



個人旅行では体験することのできない家庭の生活や文化を身近に感じることができました。ぜひ、留学を考えているならばホームステイのある国をお勧めします。

この留学を通して多くのことを学ばせてもらいましたが、特に外国（メキシコ）の歯科の環境と語学力の大切さを身にしみて感じました。もっと

英語が話せたらと何度も悔しい思いをしたおかげで今まで嫌いだった英語に関心をもつようになりました。この悔しさを忘れずに精進していきたいと思います。

最後になりましたがこんな素晴らしい経験をさせていただき心から感謝いたします。ありがとうございました。

